

# THE **A** MUSEUM

Vol.10-3 第30号 2016.2.19

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

## 蔵出し資料

くら

館有コレクションの優品

平成28年

3/19<sup>土</sup> ▶ 5/8<sup>日</sup>

清野  
謙次  
シコレク



磨製石剣

なまぐ  
鯰  
絵



地震鯰と鹿島明神に願かける人々

押絵  
羽子板



御所五郎蔵と  
傾城皁月

当館は昭和46年(1971)11月に埼玉県立博物館として開館以来、埼玉県や県域にかかわる考古・歴史・民俗・美術資料の収集に努めてきました。その結果、平成27年(2015)末現在で12万点を越える資料を所蔵しています。収蔵した資料は、常設展示室で活用するとともに、当館の特別展や企画展などで公開してきました。

今回の企画展は、収蔵資料から「優品」の名にふさわしい3つのコレクションを紹介します。

考古分野からは人類学・考古学で活躍した清野謙次が蒐集したコレクション、民俗分野からは装飾性が高く贈答品としても用いられた押絵羽子板、歴史分野からは安政大地震の後に出版された世相風刺の錦絵である鯰絵を展示します。



企画展

# 蔵出し資料

—館有コレクションの優品—

平成28年3月19日(土)～5月8日(日)



## I 清野コレクション

「清野コレクション」は、京都帝国大学教授で、病理学の分野での世界的な権威、考古学・形質人類学の研究史にもその名を遺した故清野謙次博士（1885～1955）が蒐集した資料群です。

その内容は、考古・民族資料を主体とし、現在は当館のほか、奈良県の天理大学付属参考館、大阪府近つ飛鳥博物館の3館に収蔵されています。

当館の資料は、総数1,700点以上を数え、考古資料が大多数を占めています。出自が確認できるものでは、北はサハリン(樺太)から北海道・本州、そして朝鮮半島、台湾、中国、大洋州、南米、ヨーロッパと、日本及びその周辺のみならず世界的な広がりを見せています。

今回の展示は、まず北海道・東北を主体とする豊富な石器群に始まります。次いで、青竜刀形石器、石刀、独鈷石、石冠など、はて用途が何なのか不思議な形の資料が続きます。そして日本各地の貝塚出土の骨角器、弥生・古墳時代の石製品、さらに海を越えて朝鮮半島の磨製石剣、中国の青銅器、南洋諸島の石・貝製品など、館有資料のごく一部ですが、コレクションのスケールの大きさを実感していただけると思います。

中でも目玉の一つといえるのは、いささか「専門的」かもしれませんが、現在国史跡に指定されている岡山県津雲貝塚、愛知県吉胡貝塚出土の骨角器群でしょう。



鹿角製腰飾（吉胡貝塚出土）

出土地など基本データが不明となってしまったものが多い中、あわせても数十点ですが、縄文後・晩期研究の貴重な資料です。今回、確認できる収蔵品のほぼすべてを展示いたしました。いずれも小型品ながら、石とも土とも違う質感と、リズムカルともいえる造形をぜひご覧ください。（展示担当 石坂俊郎）

## II 押絵羽子板

押絵とは、輪郭に沿って切り取った台紙に、綿をくるみながら様々な布を貼り付けて作った部品を、いくつも組み合わせて人物や風景などの形に組み立てたもので、浮き彫りのような半立体的な質感が特徴です。

押絵羽子板は、文化・文政期（1804～30）に江戸で開発され、後に関西にも広まりました。当初の図柄は福の神、松竹梅、美人などでしたが、江戸では歌舞伎と結びつくことで人気を得ました。歌舞伎狂言・歌舞伎舞踊を題材とした押絵羽子板は、江戸・東京とその周辺を主産地として、歳としの市いちの名物として販売されました。また、美女の舞踊姿を配した押絵羽子板は、初正月を迎えた女兒へのお祝いとして用いられてきました。

現在の押絵羽子板の主たる産地は、発祥の地でもあり、浅草観音の羽子板市でも知られる東京都の浅草・本所周辺と、埼玉県さいたまの所沢市・春日部市周辺です。

雛人形産地としても知られる所沢市では明治初期には羽子板が作られており、押絵羽子板は明治19年（1886）生まれの武藤力蔵氏むとうりきざうから始まったといわれます。武藤氏は多くの弟子を育てました。一方、桐製品の産地として知られる春日部市では、羽子板木地の生産から出発しました。第二次世界大戦中から戦後にかけて浅草などから多くの職人が移住してきたことで産地となりました。

当館では、所沢、春日部の羽子板職人から寄贈を受けた資料を中心に、羽子板関連資料の収集を行ってきました。当館の所蔵資料は、県指定有形民俗文化財「押絵羽子板面相師関係資料」おしえ は さいたまのんそうし（5,584点）など製作用具が中心ですが、今回は主として完成品を展

示します。昭和期に埼玉県で作られた羽子板を中心に、「狂言物」と呼ばれる実際に上演された歌舞伎の一場面を題材としたものや、「見立物」と呼ばれる典型的な美女の舞踊姿を題材としたもの、全長 20cm 程度の豆羽子板から、「看板」と呼ばれる 180cm の大型のものまで、多彩な押絵羽子板の世界の一端を紹介いたします。  
(展示担当 内田幸彦)



押絵羽子板 しおくみ 汐汲

### III 鯰絵

安政 2 年 (1855) 10 月 2 日午後 10 時頃、マグニチュード 6.9 (大正 12 年の関東大震災は 7.9) と推定される直下型の大地震が江戸の町を襲い、江戸はもちろん、現在の埼玉県東部地域でも家屋が倒壊するなど大きな被害をもたらされました。この大地震の直後に、地震鯰を描き込んだユーモアと風刺に富んだ錦絵仕立ての摺物が大量に売り出され、庶民はこぞってこれを買求めたといわれています。この出版物が、今日、鯰絵と呼ばれているものです。

当館では、鯰絵から、地震に対する当時の認識や解釈、震災後の庶民の境遇の推移を知ることができるほか、幕末期の風俗が生き生きと描き込まれていることに注目し、収集に努めてきました。その結果、収蔵する種類数および点数が国内屈指であることが国内外に知られています。

今回は、多種多様なバリエーションと内容を持つ鯰絵を、「鯰絵とは?」、「地震を起こした鯰は悪い奴? 良い奴?」、「描かれた幕末江戸の文化・風俗」の 3 部立てで紹介いたします。

まず、鯰絵が、地震を起こす生き物と当時考えられていた鯰、地震を防ぐ役割を担っていたといわれた鹿島神宮 (茨城県鹿嶋市) の鹿島明神、被災者の 3 要素で構成されていることを紹介し、代表的な作品により全体像を明らかにします。



鯰絵 鹿島明神と鯰の首引き

つぎに、世相の変化に伴い地震鯰に対する認識が変化したことを読み解きます。震災直後、地震を起こした鯰は、禍の元 (悪者) として認識されていましたが、復興事業がはじまったことを境に、お金をもたらしてくれる福の神としてあがめられるようになったのです。

そして、歌舞伎や相撲、年中行事や大道芸など当時の芸能が巧みに取り込まれていたことを明らかにします。鯰絵を通して幕末の江戸文化を楽しんでいただければと思います。  
(展示担当 加藤光男)

#### 〈主な関連事業〉

##### ■講座「安政大地震後の世相を伝える鯰絵」

講師：加藤光男 (当館学芸員)

日時：3 月 20 日 (日・祝) 14:00 ~ 15:30

会場：当館講堂

申込：2 月 20 日 (土) より電話受付 (先着順)

##### ■歴史民俗講座「企画展「蔵出し資料」から

— 押絵羽子板・清野コレクション —

日時：4 月 23 日 (土) 14:00 ~ 15:30

講師：内田幸彦・石坂俊郎 (当館学芸員)

会場：当館講堂

申込：3 月 23 日 (水) より電話受付 (先着順)

# 博物館資料を世界に発信！～Google Cultural Institute～

## Google Cultural Institute って？

一見たこともない建造物が並ぶ街で、顔だちも言葉も違う人々と触れ合う。空気の匂いさえ違って感じられる— 海外旅行の最大の魅力は、異文化体験だといわれます。政府観光局の統計による 2015 年度の訪日外客数は 1973 万 7 千人余り、海外を訪れた日本人は 1621 万 2 千人余りとなっています。

旅行先で心を動かされる世界の文化は、それぞれ固有の歴史の中で醸成されてきたものに他なりません。そうした文化の象徴とは例えば、世界遺産の建造物や遺跡、著名な芸術作品はもちろんですが、現地の博物館や美術館に赴かなければ出会うことのできない多数の工芸品や出土品などの文化財なのではないでしょうか。

'Technologies that make the world's culture accessible to anyone, anywhere.' を合言葉に、世界中の美術作品や文化財を居ながらにして詳細に鑑賞できる。そんなシステムづくりを企業メセナとして、アメリカのインターネット関連サービス会社 Google が進めています。世界の美術館・博物館と協力し、各館のもつ著名な芸術作品のほか、地域の文化や歴史を象徴する資料の高精細写真と詳細な情報

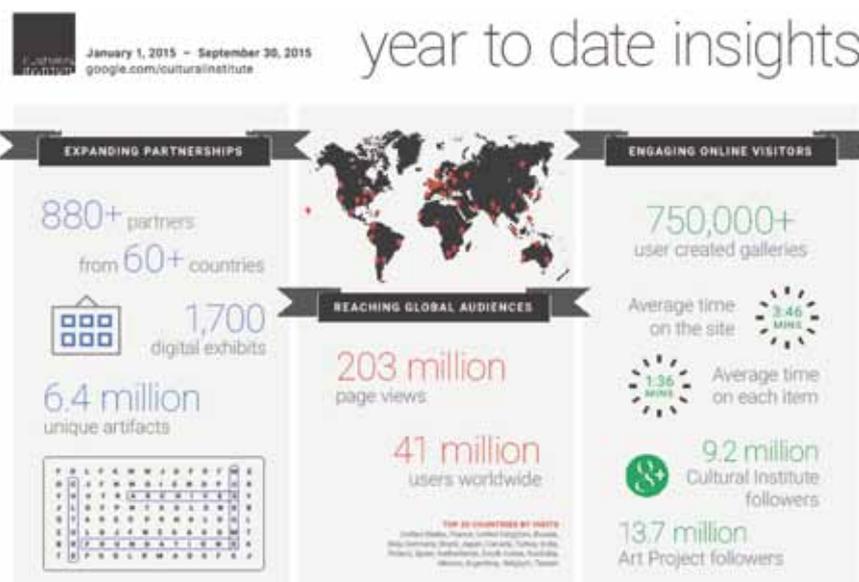
を、検索可能な状態で提供しようというものです。

これまでに参加している館には、フランスのオルセー美術館、ギリシャのアクロポリス博物館、アメリカのシカゴ美術館をはじめ、国内では東京国立博物館、国立西洋美術館、サントリー美術館などがあり、インターネットを通じて、国宝・重要文化財を含む多くの美術作品や文化財を鑑賞できるようになっています。最近の Cool Japan といわれる世界での日本文化ブームに乗って、現在は地方館も参加するようになってきました。広島平和記念資料館、立花家史料館、浜松市立楽器博物館などで、わたしたちの埼玉県では、東アジアの古代史の定点ともいわれる稲荷山古墳出土の国宝金錯銘鉄剣<sup>きんさくめいてつけん</sup>を含むさきたま史跡の博物館の資料も公開されています。平成 27 年末の参加館数は世界 60 か国 880 館以上で、6 百 40 万点の資料写真が公開され、4 千百万人以上が閲覧しています。

歴史と民俗の博物館でも、平成 26 年度から Google Cultural Institute への参加のための準備を進めてきました。今年度、Google 社と正式に契約を交わし、参加が決定し、平成 28 年 1 月から所蔵する国宝「太刀 銘景光・景政」<sup>たち めいかげみつ かげまさ たんとう めいかげみつ</sup>、同「短刀 銘景光」、県指定文化財の「太平記絵巻巻第一」、同「巻第二」のほか、源平の戦いを描いた優品「源平合戦図屏風（屋島）」などの所蔵資料を御覧いただくことができようになりました。

## Google Cultural Institute の概要

グーグル・カルチュラル・インスティテュート。世界中に向けた事業のため、英語表現となっていて難しい感じがしますが、グーグル文化研究所とかグーグル文化講座と訳せば親し



グーグルアートの 2016 年当初の現状  
(すでに多くの世界の博物館・美術館が参加しています)

みも湧くかも知れません。概要を紹介しましょう。

### その1 収集資料の検索と閲覧

当館で収集している資料のうち、浮世絵や絵巻などの歴史資料・押絵羽子板や神楽衣装などの民俗資料・屏風や工芸品などの古美術資料・土器や石器などの考古資料、全 131 点の美しい写真と説明を検索し、閲覧することができます。

### その2 博物館内の探検と資料の閲覧

インターネットの検索エンジン「Google」の地図システムでは、インターネットの地図上で、町を実際に歩いているように周囲 360 度見回すことができます。同じように、ミュージアムビューという機能を使えば、館内を自由に歩き回り、展示を閲覧できるのです。

### その3 ギガピクセル

ギガピクセルって？最近のデジタル写真は精度が上がっており、1千万画素も珍しくなくなってきました。しかし、Google Cultural Institute では、各館 1 点に限り、70 億画素とされるギガピクセル画像の資料写真を掲載できるようになっています。

歴史と民俗の博物館では、写真撮影が非常に難しい国宝の「短刀 銘景光」の撮影を行い、掲載しています。におい立つような片落ち互の目の刃紋や美しい地肌の質感をお楽しみ下さい。

## 日本文化を世界へ

今、世界が日本に注目しています。わたしたちが当たり前だと思っている習慣やふるまいが世界の人々には新鮮なのです。

今回、歴史と民俗の博物館で公開した資料は、どれも日本文化をよく表すものばかりです。また、美しい押絵羽子板などの工芸品は、日本文化を支える地方文化、埼玉らしさの象徴です。

当館の資料を通して、世界の多くの国や地域の人々に日本の文化や歴史に興味をもってもらい、訪日の機会をお作りいただければと考えます。同時に、日本のみなさんには、当館の資料に加え他館の資料を御覧になり、海外の資料と比べることで、わたしたちの暮らしや文化を見つめなおす機会になれば幸いです。

(企画担当 岩田明広)



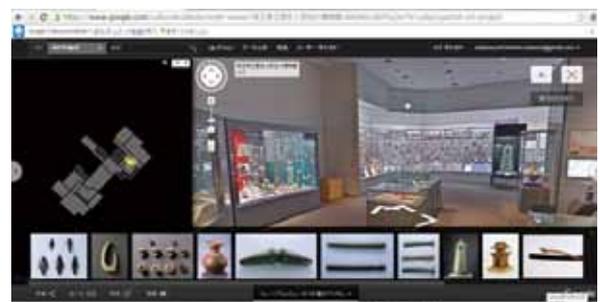
グーグルカルチュラルインスティテュートの入口(博物館資料を見るには左の Art Project をクリックしてから埼玉県立歴史と民俗の博物館を検索します。)



資料の高精細な写真と詳しい説明が表示されます



拡大すれば肉眼では見えない細部も観察できます



グーグルアートミュージアムでは仮想空間で博物館を探検できます